【論点】

教師は子どもたちに、知識や環境をどのように与えるべきか？

◆デューイは教授の方法(method of teaching)として、一般的方法と個人的方法を挙げている。

Method as General（一般的方法）

Such matters as knowledge of the past, of current technique, of materials, of the ways in which one’s own best results are assured, supply the material for what may be called general method. (p.164, ll.14-17)

（過去や、現代の技術、材料、自分の最高の成果を確実にする方法についての知識というようなものが、一般的方法と言われるものの材料を提供する。）

Method as Individual（個人的方法）

The specific elements of an individual’s method or way of attack upon a problem are found ultimately in his native tendencies and his acquired habits and interests. (p.167, ll.1-4)

（個人が問題に立ち向かう方法の独特の要素は、究極的には、彼の生まれつきの傾向と彼が獲得した習慣と興味の中に見出される。）

Some attitudes may be named, however, which are central in effective intellectual ways of dealing with subject matter. (p.167, ll.15-16)

（しかし、教材を扱う効果的な知的方法における重要ないくつかの態度を挙げることができる。）

◆また、デューイは教育者の役割について以下のように述べている。

The educator’s part in the enterprise of education is to furnish the environment which stimulates responses and directs the learner’s course. (p.174, ll.2-4)

（教育の事業における教育者の役割は、反応を喚起して学習者の進路を方向付ける環境を提供することである。）

BUT

教師は子どもたちに知識や環境をどのように・どの程度与えるべきなのか、本文からはわからなかった。

⇒上記の論点について議論したいと考えた。

議論の焦点を絞るため、本時は日本の「総合的な学習の時間」においてどのように知識や環境を与えるべきかについて議論したい。

補足：総合的な学習の時間を選定した背景

◆総合的な学習の時間における教育方法とデューイの探究の理論は、似ているという点に班は着目した。

文部科学省 「総合的な学習の時間」[[1]](#footnote-1)

総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとする

また高浦[[2]](#footnote-2)も、総合的な学習の時間は、デューイの探究の理論を元にした問題解決学習であると指摘していた。

◆そこで今回、デューイの理論に近い教育方法を取り入れている総合的な学習の時間において、教師は子どもたちに知識や環境をどのように与えるべきか話し合いたいと班は考えた。

1. 文部科学省HP「総合的な学習の時間」http://www.mext.go.jp/a\_menu/shotou/sougou/main14\_a2.htm（2015/11/07取得） [↑](#footnote-ref-1)
2. 高浦勝義『総合学習の理論』,pp149-150,黎明書房,1997年 [↑](#footnote-ref-2)